

〈適性検査1〉

— 45分 —

① 次のAからCの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

A 花火大会の日のことです。花火が終わり、会場は数キロ離れた駐車場^{しやじやう}へ向かうシャトルバスを待つ人で、ごった返していました。

一応、列をつくってはいるものの、横入りをする人やなかなかないバスに、皆、殺気だった雰囲気^{ふんいき}でした。

あきらめて駐車場まで歩き出す人達^{ひとたち}もいましたが、私達夫婦^{ふたふ}は二人の小さな子ども連れだったので、我慢^{がまん}してバスを待ちました。

やっとバスに乗り込んだのは、二時間後。それもすし詰め状態であちらこちらから怒声^{どせい}が聞こえます。眠^{ねむ}ってしまった子どもをそれぞれに抱えた私達は、子どもを守るのに精一杯^{せいいつぱい}でした。

そんなとき、

「ここにどうぞ」

と優しい声がしました。近くの席に座^{すわ}った初老の御夫婦^{ごふふ}が席を譲^{ゆず}ろうと言われるのです。

あわてて辞退すると、

「じゃあ」

と子どもを膝^{ひざ}に乗せてくれました。

バスのなかの誰も^{だれ}が疲^{つか}れてイライラしていました。けれどあのとき、「どうぞ」の一言で、明らかにバスのなかの雰囲気^{ふんいき}が、ふわあつと変わっていったのです。心は伝わっていくんだと、思いやりの大切さを実感しました。

せつかく見た花火の美しささえ忘れそうになっていた私たち。花火より美しい一言に救われた素敵^{すてき}な夏の思い出です。

〔小さな親切〕運動本部 編

『涙^{なみだ}が出るほどいい話 第八集』〈河出書房新社〉より

B 今日、銀杏^{いちよう}並木の美しい黄葉^{こうよう}を見ました。

重なりあつた銀杏の葉が実にさまざまに異なつた微妙な色合いを映して、日の光のなかに揺^ゆれていて、その黄葉の見事さは思わず息を呑^のむほどでしたが、目はそのさまざまに違^{ちが}う色合いを認識^{にんしき}していても、さて、ことばで、その黄の織りなす美しいさまざまな黄色をどれだけ言いあらわせるだろうと考えると、難しいのです。

十二色のクレヨン^②の色ぐらいいし色彩^{しきさい}のヴォキャブラリーをもたなければ、黄葉の美しさをなすさまざまな黄も、結局、ただ黄色とだけしか言えないだろうなあとと思う。

〔長田弘^{おさだひろし}「すべてきみに宛^あてた手紙」〈晶文社〉より〕

C 「みなさん、家路^③につくときに空を見上げることがあります。見上げてても一銭の得にもなりませんよ。でも、あなたの頭上には、無数の美しい星^{かがや}が輝^{かがや}いているのです。少しの間、首をめぐらして空をご覧になつてはいかがでしょうか。ころばないようにアスファルトの道路だけ見つめて歩くより、頭の上に輝^{かがや}いている美しいものを気に留めて歩いた方が、毎日が楽しくなると思いませんか」

彼は^{かれ}そう話を切り出した。アスファルトの道を見つめながら、あと何分で駅に着ける、家に着けると足早に急いでいたわたしたち。話を聞いた瞬間^{しゆんかん}、わたしはとんでもなく損をしていたような気にさせられた。まわりの何ものにも目をくれず、足を早めて歩くことで、わ

たしは何を得てきたのだろう。話は続いた。

「毎日のように夜になると頭の上にある美しいもの、それを意識して生きるのと、無意識にもそういうものから目をそらして生きるのと、どちらが豊かでしよう。わたしは夜空を愛するようになって久しいのですが、そのことで物質的に得したことは何もありません。でも、わたしはやっぱり空を見、望遠鏡をのぞきたいと思っています」

宇宙の神秘しんぴに向かい合っている彼の幸せを思った。星だけではない、月も、花も、鳥も、夕焼けも、雲も……、目に入ってくるいろいろな美しいものを、わたしは本当の意味で見えてはいなかったような気がした。

(村上慎一「なぜ国語を学ぶのか」(岩波書店)より)

◎ことばの意味

- ① シャトルバス……短い距離きょりを定期的に往復するバス
- ② ヴォキャブラリー……個人が使うことばの数
- ③ 家路……家に帰る道

問1 AからCまでの文章から共通したテーマを見つけて、それぞれが

うったえていることを一文ずつでまとめなさい。

問2 あなたが最近「美しい」と感じたことを、理由をふくめて二〇〇

字程度で書きなさい。